

関西国際空港におけるコアジサシの標識調査

兵庫県三田市 村上亮

関西国際空港は大阪府の南部で大阪湾内泉州沖 5Km の人工島に作られた海上空港で、敷地は三つの市郡にまたがっている(大阪府泉佐野市・泉南郡田尻町・泉南市)。通称は関西空港あるいは関空と呼ばれている。空港は二つの島で構成されており、第1期空港島は1994年(平成6年)に開港した。その後1999年(平成11年)に2期空港島の造成と4000mの滑走路工事に着手し2007年(平成19年)に工事完了した。世界で初めての「すべてが人工島からなる海上空港」である。

コアジサシ *Sterna dougallii* の標識調査は2004年(平成16年)から工事中の2期空港島で実施しており、途中中断もあったが2018年(平成30年)まで15年間調査を行っている。中断はコアジサシが突然こなくなったためである(2005年～2008年)。原因はわからない。

大阪湾沿岸にはコアジサシが繁殖できそうな場所が何か所もあり、そのほとんどが埋め立て地や造成地等の人口地形である。これらの場所は一時的に作られた場所であり、工事等の進行により消滅していくことになる。このような人工的環境での繁殖は毎年安定した繁殖場所が約束されず3～4年で新しい場所に移動していくことが多い。

関空では調査開始から15年たっており、いまだに繁殖は続いているが、翌年はどうなるか不安である。

今大会では広大な敷地の中での標識調査、空港とコアジサシとの関係等についてお話したい。

表 2004～2018年 放鳥記録

年度	コアジサシ	ベニアジサシ	シロチドリ	コチドリ	ヒバリ
2004	292		1		
2009	292				
2010	411	2	1		
2011	582	4	4	1	1
2012	430	22	8		
2013	251	5	10	1	
2014	582	15	4	1	2
2015	28		3		
2016	137		7		
2017	22	7			
2018	4		1	1	
合計	3088羽	55羽	39羽	4羽	3羽